



札幌市立平岡小学校
学校だより
＜第 9 号＞

令和 7 年（2025 年）11 月 17 日

『令和7年度 全国学力・学習状況調査』

本校6年生の調査の結果概要等のお知らせ

令和 7 年 4 月 17 日に、全国の 6 年生を対象として『令和 7 年度 全国学力・学習状況調査』が実施されました。本調査は、全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、学校における児童への教育活動の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

本校 6 年生の個人の結果につきましては、既に各家庭にお知らせしておりますが、この度、本校 6 年生全体の分析をお知らせします。このうち、「課題」につきましては、6 年生だけの課題としてではなく、本校児童全体の課題として捉え、「改善の方向」も同時に、全学年を通じて改善を進めていく方向を示しております。

なお、文部科学省よりの通知にもありましたが、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえてご覧いただきたく存じます。

【国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【指導要領の内容及び観点】

知識・技能

- ◇「言葉の特徴や使い方」に関する事項において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「情報の扱い方」に関する事項において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「我が国の言語文化」に関する事項において、全国の正答率を上回っている。

思考・判断・表現等

- ◇「話すこと・聞くこと」において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「書くこと」において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「読むこと」において、全国の正答率を上回っている。



今回の調査における課題

- どの領域に 関しても今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。
- 知識・技能の観点の問題、思考・判断・表現の観点の問題、ともにしっかりと力を付けてきていると考えられます。
- 「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」に関する事項の領域の問題は特にしっかりと力を付けていることが分かりました。

改善の方向

国語科に関する調査の結果からは、課題は見当たりませんでした。主体的、対話的で深い学びによる授業を一層促進するだけでなく、学びを実生活や次の学びに子どもたちが自己決定したくなるような授業の導入や、自己の変容を実感できるような授業展開を考えるなど、校内での授業研究や研修を通して、教職員の更なる授業力の向上を目指していきます。

【算数】

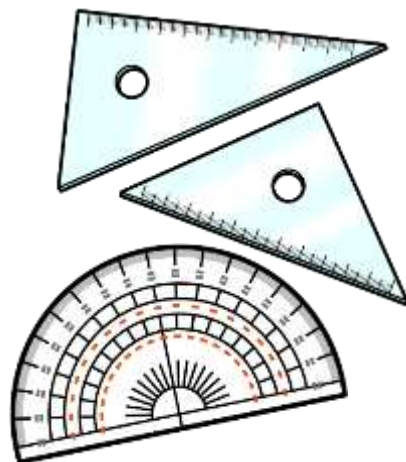
教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【指導要領の内容及び観点】

知識・技能 思考・判断・表現

- ◇「数と計算」において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「図形」において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「変化と関係」において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「データの活用」において、全国の正答率を上回っている。
- ◆「測定」において、全国の正答率を下回っている。



今回の調査における課題



- 「数と計算」「データの活用」に関する事項の領域の問題は特にしっかり力を付けていることが分かりました。
- 「はかりが示された場面ではかりの目盛りを読むことができる。」が全国平均を下回っていました。

改善の方向



算数科では、「はかりが示された場面ではかりの目盛りを読むことができる。」のみ、全国平均を下回りました。「測定」領域の課題として単なる知識不足と実生活での活用力なのか、単位換算などの技能が課題なのか個人によって差があると考えられます。授業改善に向けた具体的な取り組みとして実感を伴う学習の重視し実際に様々な道具（巻き尺、はかり、ストップウォッチなど）を用いて、長さを測ったり、重さを量ったりする体験的な学習を増やします。

【理科】

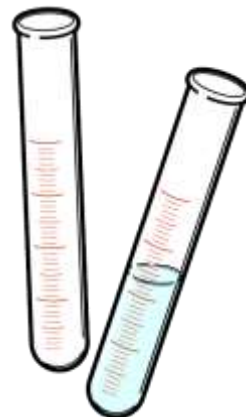
教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【指導要領の内容及び観点】

知識・技能 思考・判断・表現

- ◇「エネルギー」を柱とする領域において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「粒子」を柱とする領域において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「生命」を柱とする領域において、全国の正答率を上回っている。
- ◇「地球」を柱とする領域において、全国の正答率を上回っている。



今回の調査における課題



○どの領域に 関しても今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。

改善の方向



児童が自ら問題を見出し、解決していく「探究的な学習」をさらに充実させます。観察・実験の結果を「言葉」や「図」で表現・考察する活動を強化していきます。学習したことが「生きた知識」として身に付き、将来社会で役立つと実感させるための取り組みを強化していくことで理科の授業において「知識・技能」の定着だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」といった資質・能力をバランスよく育てていきます。

【質問紙調査結果】

学校や家庭での「学習」や「生活」の様子について

子どもの学校・家庭における学習の様子に関わって

【学習活動に関わって】

＜学習活動と生活＞

- ◇「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「学校の授業時間以外での読書」は全国平均を上回っている。
- ◇「新聞を読んでいる」は全国平均を上回っている。
- ◇「読書は好きですか」は全国平均を上回っている。
- ◆「1時間以上家庭学習（学校以外の学習）をしている子」は全国平均を下回っている。

＜ICTの活用＞

- ◇「ICT機器を勉強に使っている時間」は全国平均を上回っている。
- ◇「ICT機器で文章を作成することができると感じますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「ICT機器で情報を整理することができると感じますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「ICT機器でプレゼンテーションを作成することができると感じますか」は全国平均を上回っている。

＜5年生までの授業＞

- ◇「5年生までの授業でICT機器で分からないことがあったときにすぐに調べることができると思いますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「5年生までの授業でICT機器で自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができると思いますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「5年生までの授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」は全国平均を上回っている。
- ◇「5年生までの授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間になっていましたか」は全国平均を上回っている。
- ◆「5年生までの授業でICT機器をつかって楽しみながら学習している子」は全国平均を下回っている。
- ◆「5年生までの授業で毎日ICT機器を授業で使っている子」は全国平均を下回っている。
- ◆「5年生までの授業でICT機器をつかって友達と協力しながら学習している子」は全国平均を下回っている。

【教科に関わって】

<国語>

- ◇「国語の勉強は得意ですか」は全国平均を上回っている。
- ◇「国語の勉強は好きですか」は全国平均を上回っている。
- ◇「国語の授業の内容はよく分かりますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「国語の授業で、先生は、あなたのよいところや前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「算数の授業の内容はよく分かりますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」は全国平均を上回っている。

<算数>

- ◇「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」は全国平均を上回っている。
- ◆「算数の授業で学習したことを、普段の学習で活用できていますか」は全国平均を下回っている。

<理科>

- ◇「理科の勉強は得意ですか」は全国平均を上回っている。
- ◇「理科の授業の内容はよく分かりますか」は10割が肯定的回答。全国平均を上回っている。
- ◇「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見出したりしていますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「理科の授業では、課題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）をたてていますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」は全国平均を上回っている。
- ◆「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」は全国平均を下回っている。
- ◆「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか」は全国平均を下回っている。
- ◆「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」は全国平均を下回っている。

家庭生活・地域での生活・その他

- ◇「毎日（ほぼ）朝食を食べる」と回答している児童の割合は10割。全国を上回っている。
- ◇「毎日（ほぼ）、同じくらいの時刻に起きている」と回答している児童の割合も9割を超え、全国を上回っている。
- ◇「あなたの学級では学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」は全国平均を上回っている。
- ◇「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」は全国平均を上回っている。

子どもの自己有用感・規範意識に関わって

- ◇「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」は全国平均を上回っている。
- ◇「学校行くのはは楽しいと思いますか。」は全国平均を上回っている。
- ◇「友達関係に満足していますか。」は全国平均を上回っている。
- ◆「人が困っているときは、進んで助けていますか。」は全国平均を下回っている。

「質問紙調査」の結果から

朝食摂取率 10 割、起床時刻の安定性 9 割超という結果から、児童の心身の健康維持に不可欠な生活リズムが確立されていることがわかりました。本校児童は、学習への意欲や ICT 活用スキル、読書習慣など、多くのポジティブな特性を持っています。しかし、その意欲やスキルが、「家庭での学習時間の確保」や「学校での ICT を活用した協働的・探究的な学習活動」に十分に結び付いていない可能性があります。

国語と理科の学習に対し、高い関心と理解度をもっています。特に、国語に関しては「得意」「好き」「理解度」「教師からのフィードバック」のいずれも全国平均を上回っており、良好な学習環境が構築されていることが伺えます。理科についても同様に理解度や学習活動への積極性は高い傾向にあります。

一方で、算数と理科において、学習内容の「実生活や将来への有用性」や「活用」の意識が全国平均を下回っている点に課題があります。特に算数は「理解度」や「説明する活動」は良好であるにもかかわらず、「活用」の項目で全国平均を下回っており、知識の定着は図れているものの、それを現実場面に応用する力が不足している可能性があります。理科では「将来の職業」への意識も低く、学習と社会とのつながりが見えにくい状況が示されています。

改善の方向

「活用」を重視した授業設計：知識の暗記に留まらず、学んだことを現実場面で応用する課題や活動を増やします。特に算数では、実生活と関連付けた問題解決型の学習を取り入れます。

探究的・協働的な学習の推進：ICT も活用し、児童が自ら課題を見付け、多様な情報から解決策を探求し、他者と意見交換しながら結論を導き出す学習活動を充実させます。

キャリア教育の視点導入：理科などの授業で、その分野が将来の職業や社会でどのように活用されているか具体的に紹介し、学習意欲と社会とのつながりへの意識を高めます。

お子さんの力を伸ばすために

規則正しい生活と高い学習意欲を持つ児童たちですが、「知識の活用力」に課題があります。特に算数と理科において、学習内容が実生活や将来にどう役立つかの意識が全国平均を下回っています。この改善には、家庭での具体的な応用を意識した学習や、学校と連携した学習と社会とのつながりを話し合う機会の創出が不可欠です。学校と家庭が一体となって子どもの学習習慣・運動習慣・生活習慣づくりを支える指針として、札幌市が作成しました家庭向けリーフレット「さっぽろっ子『学び』のススメ」を配付しております。このリーフレットでは、「学ぶ力」の育成に向けた 5 つのポイントを家庭向けに具体化し、その頭文字を取った

「まほうのかいわ」を合言葉としています。子どもたちのよりよい成長を目指すためには、学校と家庭が連携し、子どもたちの頑張りを支えていくことが大切です。今後も、平岡小学校の教育活動への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



ま：学んだことを一緒に振り返りましょう

ほう：方法を一緒に考えましょう

の：伸びを認め、ほめましょう

かい：改善に向けて、生活を一緒に振り返りましょう

わ：わからないこと、できないことに挑戦できるよう励ましましょう